

# 雑草学入門

森田 弘彦

大阪府立大学と東京農業大学で雑草学に多大な足跡を残された山口裕文先生が監修し、東京農業大学の宮浦理恵先生、松嶋賢一先生および京都大学の下野嘉子先生を編集者とし、さらに、雑草学や種生物学の最先端で活躍中の25名の研究者の研究成果を配して、「雑草学の重要さを理解していただければ」と意図した学術入門書である。

まず、「雑草という用語の定義の考証」をテーマとした監修・編集者の4人による討論記録に始まり、「雑草の多様でたくましい生き残りの原理、雑草に組み込まれた生理的・生態的特徴、雑草防除技術の進展とその中での雑草のふるまい」、および「雑草の生活活用と文化認識の成り立ち」へと展開する。Part IからPart IIIまでは農業を基盤とした雑草の解説で、いずれのChapterでも担当の執筆者による最先端の情報が提供されている。雑草とその制御に携ったことのある読者にとっては、必ずどこかで自分の経験とつながる記述に出会うことができるであろう。Part IVでは、民俗植物学の知見や教育での雑草の利活用に加えて、「・・・雑草は、人間の五感のうち、特に食べる、見る、触るという3つの感覚を刺激し、身近で活用したい・楽しみたいと考える・・・」という人々に向けた情報も提供される。住宅地を含む緑地や堤防など農地から離れて日常生活に近い場面での雑草とその管理にも、人々の関心が及んできていることを考えると、この部分は今後さらに拡充されることを期待したい。またChapterの間のColumnも興味深く、さらにTopicsで重要な用語が解説されている。

「大学1年から2年生程度の授業での副読本となるように平易な文章で解説している。(はじめに)」とあるように、執筆者各位が蘊蓄を傾け、工夫を凝らして基本的情報と最新の研究成果を記述しているが、それでも、上記したような一定の経験のある読者はともかく、初学者には難しいかもしれない。「Chapter 8 8-1 除草剤の開発と利用」は、本来であれば1冊の教科書とするテーマを、項目を絞って要領よく述べているものの、ほとんど文字で占められている。雑草学の本の宿命としておびただしい数の植物名や除草剤の成分名が並ぶのが、難しさを感じさせる一因とも考えられるので、例えばChapterの冒頭に、そこで扱う主要な種の画像を置く、などのサービスがあってもよいのではないかと思う。しかしこれを逆に考えれば、多数の植物名や化学物質名の中から、自分の記憶にあるものを含むChapterからまず入って読み通す、こともできると思う。とかく「活字離れ」と言われる現今の学生や若い読者には、執筆者の工夫を頼りにして読み通してほしい内容である。

なお、口絵のカラー写真は鮮明であるが、本文中では印刷技術上の問題に起因すると思われる不鮮明なモノクロ写真がしばしば見られるのが惜まれる。

カタバミ(酢漿草)、リンドウ(三葉竜胆)、ナズナ(五つ薺)



講談社サイエンティフィック  
A5判  
口絵 8頁  
本文・索引 335頁  
本体価格 3,600円(税別)  
ISBN 978-4-06-512952-4

など植物をデザインした家紋を配した表紙カバーからも、監修・編集者の意気込みを感じ取れる。2018年のノーベル医学・生理学賞に輝いた本庶佑先生は、「教科書に書いてあることを信じないこと。」などとおっしゃったとのことである。筆者は、教科書にはそれまでに得られた知識が書かれていて、学ぶ側はそれを基に展開や発展を図るもの、と理解している。その観点から本書を、植物・雑草とその管理・利用に関する、展開や発展のタネが随所に埋め込まれている教科書・入門書として、多くの方にお奨めする。

## 「雑草学入門」の目次

- Prologue 雑草とは何か 一 氾濫する「雑草」の解釈と雑草学の範疇一
- Part I 雑草の多様性
- Chapter 1 雑草の種類と分布拡大
  - ①コムギ畑の雑草フロラに見られる種組成の大陸間比較, ②農産物に混入する雑草の種子
- Chapter 2 雑草フロラの変遷
  - ①稲作農耕伝来後の水田雑草フロラの変遷, ②水田畦畔草地の生物多様性
- Chapter 3 雑草の種間相互作用
  - ①繁殖干渉と雑草の分布一オナモミ類とイヌノフグリ類を事例として一, ②外来雑草と外来天敵昆虫の進化的相互作用
- Part II 雑草のふるまい 一群落と生理生態一
- Chapter 4 雑草群落の攪乱と人為干渉
  - ①霍乱と雑草一津波と原発事故に伴う大規模霍乱のもとで一, ②雑草群落の遷移に及ぼす攪乱と環境の影響
- Chapter 5 雑草の生活史と生活環
  - ①雑草種子の発芽と休眠, ②アレロパシーを介した作物と雑草における生活史干渉
- Part III 近代的雑草防除へ/防除技術の革新的変化
- Chapter 6 農業への干渉
  - ①水田の強害雑草タイムビエと戦う, ②コナギの生活史特性と防除管理, ③水田裏作における雑草スズメノテッポウの管理
- Chapter 7 耕種的管理: AI 除草へ
  - ①除草ロボットの開発, ②アレロパシーを介した作物と雑草における生活史干渉
- Chapter 8 化学的管理
  - ①除草剤の開発と利用, ②化学的生態型の進化一雑草の除草剤抵抗性のメカニズム一
- Part IV 雑草の文化と活用
- Chapter 9 文化資源と生物活用
  - ①雑草の認識および利用・共生と人間活動, ②雑草の利用
- Chapter 10 雑草学の歴史と広がり
  - ①雑草の語義文化と雑草生物学
- Appendix 戦後日本の雑草防除史と関連法規・登録除草剤年表